

日米時報

ロースバーク
日本人
收容所
知事司
一月廿三日
土曜
オニ二九号

濠洲西北岸の損害

航空大臣復讐言を折る

メルボルンに於て濠洲航空相アーサー・S・ドレーキ
フォードは声明して曰く「濠洲空軍は今より甲に
必ず濠洲国五座の航空機と爆弾を以て東京
を爆撃せん。濠洲人は日本が米國に對して眞
珠湾軍港を不意打を加へしのみならず、濠洲
西北岸ブルム港に狂暴なる損害を與へた
るに對し、必ず之が復讐言を敢行せしに熄ま
ぬやう、太平洋上の戦勝の日は尚遠く遠くあると
支那軍使英米に警告した

双葉にして刈るを忘るな

蔣介石の軍使台芳鈞大將は本日華府に於
て聯合軍側に警告して曰く「英米人は尚
日支人を輕視する傲大あり、日本軍の強きは
日本國民の協力に成る、戦後の左領地並に國
内の生産力と軍事工業の進展の結果に外
ならず、一刻の猶豫は百年の悔を殘す、双葉
にして刈るを忘るな、日本は今や双葉に非ず
して既に成熟の過渡期にあり、英米人は今こそ支那
の力と士氣を侮る勿れ、中華の兵にこそ始めよ

よく日本軍を牽制し得む、更に之に兵器を
貸せば日本軍を殲滅せん」と述べた。

英国外相の汎米対策

イーデン英外相は下院に報告して「聯合軍は
益々戰場を優勢に押し、外交亦之に伴ふ」と
述べ汎米結束の日近しと云ひ、智利は其態度
を明かにして最早アルゼンチナのみ枢軸國と交
渉あり、英國は傳統的通商經濟關係を
アルゼンチナと倍復復活して益々英米間、戦後
の交渉の楔子を造り密かんとすと声明した。

新造母艦ヨロクワン

日米戦に沈没を遂げた米國母艦ヨロクワン
号オセはワアレン州ニエホト造船所で
廿一日、オスカーの命名式と共に進水した。

リンドバーグ大佐歸任

南加州方面を空から巡視して来たリンドバーグ
大佐はサンデーゴ及びロスアンゼルスへの用命を果
して歸任の途に就いた。

海軍機消息を断つ

華府公報に據れば海軍機ニ台は廿五日
の將校並に兵士を搭載して一はアリゾナ州
より加州へ、一は布哇及加州間の飛行途上ラ
オオ通信を断ち、消息を断ち、消息を断ち、消息を断ち、

南太平洋作戦一般

ワカカナル島にえ来一万五千人の日本兵駐
屯し居たが、過去六ヶ月内に一万一千は戦
没し、残餘の大半は二病傷兵にあり、其掃
蕩場近しと報じ、又、ニニキニア捕虜軍も殆
ど全滅に近しといふ。

ロストフ益々危し

ロストフを包圍せる赤軍陸軍は、北はカンペンヌク
南はクラスノダ方面に迫り、他は南高
加索の油田の支持困難と共に、カーコフも亦
危威され或はロストフの陥落を見逃がさ
ざるを得ずと観られし。

リビアの女王市抛棄せし

リビアの女王市ヲ稱するトリポリ市は各所
に大々火火起り、ロムル軍の殿陣は進土戦
と共に西方に退いてゐる。オ八軍は何とかがして、ロ
ムル軍をポニテアで喰ひ止めんと焦心して、
ヌロロムルはヨメ分チユニテア新任独逸軍
長官、フオンアンニム少將と合作すると観らる。

捕虜將校十三名の消息

ウエンライト中將、エトワードキング、ジョージ・
ジョージ、パーカー、ルイス・ヒスビー、クリフト
ブラムメル、ウィリアム・ゴットファ、チャー
ルズ・ドレーク、アール・ド・フランク、マクム・ラッ
アレン・マックフライド、クリントン・ピアス、及び
セームス・ウエバーの十三名將校、合計十三將校は
現在台湾捕虜收容所に在り、確報を得た。

中村友一氏のゴルフ講座

本廿三日午後七時よりオ五中隊社交室にて
ルール、エチケット、及びスコアに依る打法等
ゴルフの注意点を、今後はキヤン・マート
の、種目古はア・ロリ・程度に止むこと。
ロニゲレヤフトは東方垣外ゴルフ場に行ふこと。

病院より

入院 渡辺徳三(山梨) 退院 荒木政雄(熊本)
栗田常次郎(愛媛)

知事司より

キヤンテン休業
明日曜日はいんべんトリの仕舞子の都合
上、キヤンテンの営業を終日停止します。

書画手藝品展臨見會

明日曜日午前十時より、オ三大隊宗教堂
及び娛樂室に於て同展開催。厚生部
の主催に一般の支援を願ひます。

紛失物 酒保キエー

便所に紛失せし者あり、発見者は當時
報社迄お届下さい。

其士教社拜

明日曜日午前九時、オ十中隊社交室
司式 石川牧師
説教 勳中靜山 岡本牧師

佛教社拜

明日曜日午後七時半、オ九中隊食堂
勤行十二礼 導師 早島大藏師
説教 布哇と宗 黒平法照師

オ二大隊通信

明日曜日午前九時、オ二大隊オ五社交室
苗圃宗禪堂

般若心經(德講)

吉住浩巖師
同 午前九時、オ二大隊オ六食堂

淨土宗聖典講話

同 午後七時、オ二大隊娛樂室
日曜礼拝 飛龍彈車精師
説教 道了師 今村謙全師

説教

